



平成24年12月18日

日本原子力発電株式会社

敦賀発電所敷地内破碎帯の活動性評価に係る追加調査計画（改訂）について
(D-1 トレンチ内に見られるせん断面に関する調査の実施)

当社では、本年4月24日に実施された旧原子力安全・保安院による現地調査での専門家による指摘を踏まえ、敷地内の破碎帯の活動性に関し更なるデータ拡充を行うことにより、当社のこれまでの評価（破碎帯は耐震設計上考慮すべき活断層ではない／破碎帯は浦底断層の活動に連動して活動しない）についてその信頼性を向上させるため、5月14日に追加調査計画をとりまとめ、調査を実施してきているところです。

今回、その調査の過程で確認されたせん断面について調査を行うこととしましたので、本日、上記追加調査計画の改訂を原子力規制委員会（以下、「規制委員会」という）に提出しました。今後、速やかに調査を実施してまいります。

当社としては、今後の調査から得られる客観的なデータ、数値解析等に基づき科学的見地からの総合的評価をとりまとめ、規制委員会にご判断して頂きたいと考えています。

- ・添付資料：敦賀発電所敷地内破碎帯の活動性評価に係る追加調査計画（改訂）について
(D-1 トレンチ内に見られるせん断面に関する調査の実施)

以 上

**敦賀発電所敷地内破碎帯の活動性評価に係る追加調査計画（改訂）について
（D-1 トレンチ内に見られるせん断面に関する調査の実施）**

1. 調査目的

D-1 トレンチ内において第四系中に認められたせん断面について、その形成の成因を明らかにするため、調査を追加的に実施する。

2. 調査内容

- ①せん断面の地下深部に、対応する破碎帯があるか否かを確認するため、せん断面の直下を対象としたボーリング調査を実施する。
- ②せん断面が認められた堆積物に、浦底断層の活動に伴い圧縮力が加わった原因が何であるかを確認するため、浦底断層からせん断面の間を含む範囲を対象としたボーリング調査を実施する。

3. 調査工程

本調査については、自然公園法等に係る準備・手続きが完了次第、速やかに調査を開始し、2月完了を目途に実施する。

4. 評価のとりまとめ・報告

本調査及び継続中の敷地内破碎帯評価に関する追加調査の結果を踏まえ、破碎帯の活動性に関して総合的に検討を行い、平成 25 年 2 月末を目途にとりまとめ、報告を行う。

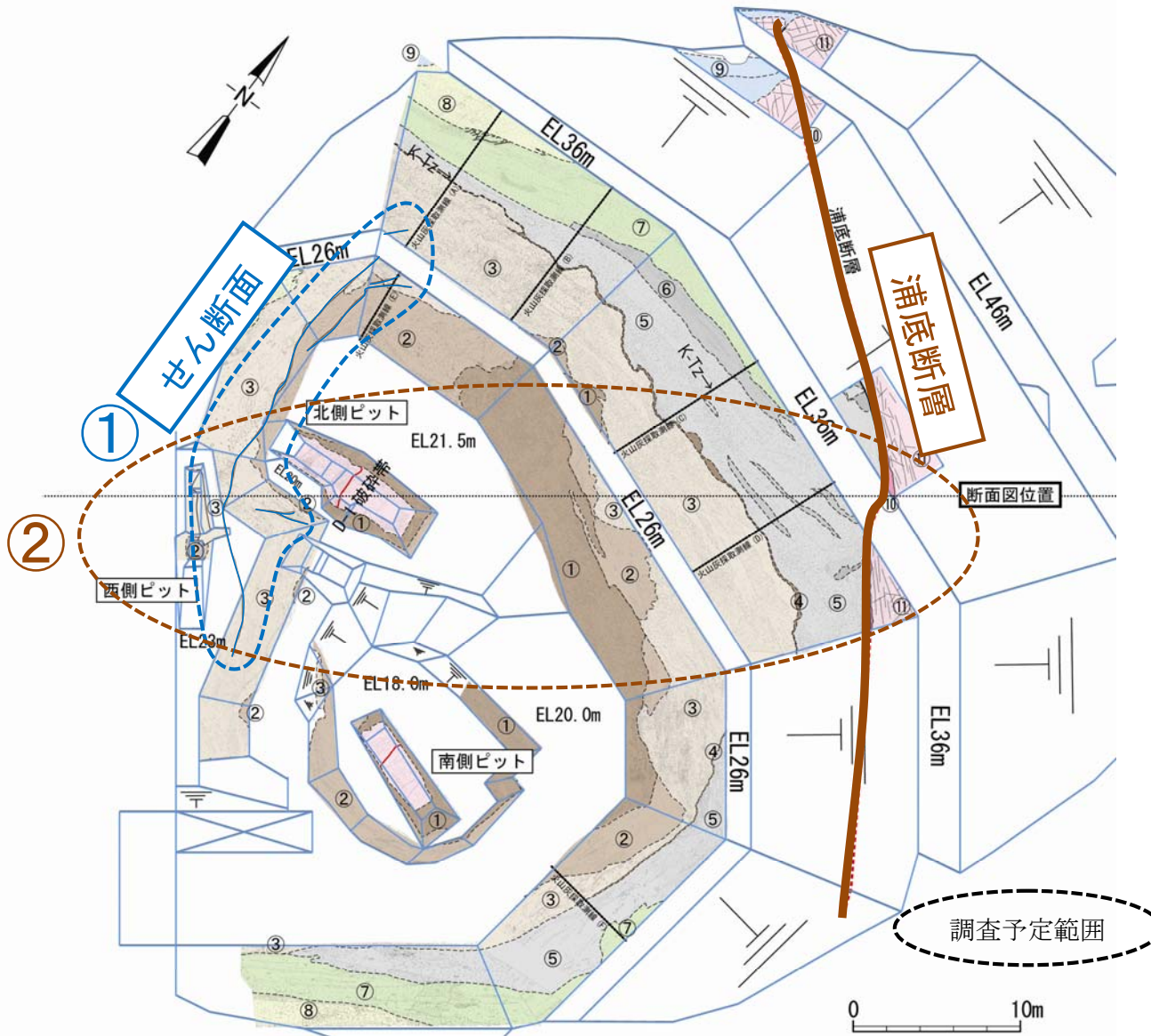
なお、調査内容、工程については、今後の状況等に応じて追加・変更する場合があります。

以上

D-1トレンチ内に見られるせん断面に関する追加調査について

◆せん断面の形成原因（現時点での当社の解釈）

- ・せん断面は非常に短く、向きも大きく変化する。
→（解釈）地下に連続性のある破砕帯があることによって形成されたものではない。
- ・せん断面は浦底断層のごく近傍（水平距離で30m程度）にのみ認められるとともに、逆断層の動きも認められる。
→（解釈）浦底断層が活動することにより堆積物に圧縮力が加わり、せん断面が形成された。



◆追加調査

せん断面の形成原因を明らかにするため、下記の調査を追加実施。

① せん断面の地下深部に、対応する破砕帯があるか否かを確認するための調査

② 堆積物に圧縮力が加わった原因が何であるかを確認するための調査

*調査はボーリング調査で実施する。
*調査の進展を踏まえ必要に応じ、更なる調査、検討を実施する場合もあり得る。

敦賀発電所 破砕帯追加調査計画(改訂) 主要工程

調査地点			内容	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
①	変動地形調査		地形情報の把握 ・空中写真DEM*1 ・航空レーザーDEM*1										
②	既往露頭	D-14破砕帯											
③		H-3a破砕帯											
④		D-1破砕帯											
③'	露頭調査 (斜面安定部)		H-3a破砕帯	①破砕帯の影響を受けていない地層の年代を調べ、破砕帯の活動年代を把握する調査 (上載地層法による評価) ・より高密度の火山灰分析 ・OSL*2による上載地層の年代分析 ②岩盤/第四紀層境界の明確化 ・CTスキャンによる地質の詳細観察 ③破砕部に着目した活動年代の検討 ・ESR*3などによる活動年代評価									
⑤	トレンチ (浦底断層北方)	D-14破砕帯											
⑥		D-1破砕帯											
⑦		f-25破砕帯											
⑧	大深度調査坑 (浦底断層南方)	D-5破砕帯	④破砕帯のずれ方向の検討 (破砕部の変位センス) ・条線方向の測定 ・薄片などの観察										
⑨		D-6破砕帯											
⑥'	新規調査	ボーリング調査	D-1トレンチ内せん断面	せん断面の成因に関する検討 									

注) 調査内容、工程については、調査の状況等に応じて追加・変更される場合があり得る。

*1 DEM 数値標高モデル (Digital Elevation Model) 地形をデジタル化したもの。
 *2 OSL 光ルミネッセンス法 (Optically Stimulated Luminescence) 鉱物結晶が光を遮断されてからの経過時間を測定する手法。
 *3 ESR 電子スピン共鳴法 (Electron Spin Resonance) 断層内物質のESR信号を利用して、断層活動の年代を測定する手法。